

2016年度（第13期）事業計画書

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

特定非営利活動法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会

2016年度 事業実施の方針

2016年度の事業実施方針は以下のとおりである。

今年度も昨年度同様、北インド・ウッタラプラデシュ州アラハバード県にあるサムヒギンボトム農工科学大学継続教育学部を中心に、農村におけるリーダー育成、貧困家庭の子どもの教育、農村の栄養・母子保健改善のための支援、そして、農村住民の自立のための有機農業組合活動と所得向上支援活動に取り組んでいくことを基本方針とする。これらの支援を行うために、必要なスタッフ、専門家、インターン、ボランティアを現地に派遣する。

1. 前総会での決定に基づき、代表理事二名、副代表理事二名を置く予定であったが、会の代表は日本国内在住の代表理事一名とすることが望ましいとの会計事務所からの指導を受け、定款はそのままとし、代表理事一名、副代表理事二名(国内一名、現地一名)を選出する。
2. 日本の方々に本会の活動を理解してもらい、支援の輪を広げるために、以下の事業を強化する。インドスタディーツアー、活動報告会(又はセミナー)及び日本の団体との協働によるイベント企画、AVS(農村女性のための裁縫協会)が制作する手芸品の販売、更にインターネット等を使った広報活動に力を入れる。
3. 国内事務所の強化を図る。事務局長代理の丹羽寿美が退職希望のため、その後任をハローワークで求人中である。3月から正式雇用となった會田るり子は、会員管理と収入向上事業を担当する。また、繁忙期など必要に応じて、事務作業補佐のためにアルバイトを雇用する。国内で行われる会計処理は藤沼会計事務所の指導の下で行う。昨年同様、本会事務所を事務作業の他に、インドからの事業関係者の宿泊、交流、勉強会等、また日本国内のボランティアの活動のために使用する。
4. 今年度も JICA 草の根技術協力事業からの受託事業(政府保健機関スタッフと農村保健ボランティアの協働による統合的母子保健事業)、アジア生協協力基金(北インド・アラハバード県における有機農業組合運営強化と人材育成)が供与されているので、それらの関連事業を実施する。
5. 昨年からは開始した、子どもの教育、農村女性のための職業訓練を持続可能な活動にするために、アーシャ学校の生徒及び裁縫教室受講生のための奨学金基金募金活動を継続する。
6. 2017年12月に終了する JICA 受託事業(JPP)を見据え、新たな JPP 事業又は外務省の NGO 支援事業にプロジェクト申請の準備をする。

上述した事業の具体的な活動は以下のとおりである。

- 貧困家庭の子どものための教育事業 (アーシャ学校の運営)の支援

- 農村在住の草の根農村リーダーの育成支援
- 水稻を中心とした有機農業の普及、販売に関する協力、支援
(環境保全型 鴨・稲作同時作 普及システム構築)
- アーシャ農村学校を中心とした農村女性の教育と裁縫クラス支援
- 農村女性及び、農村青年が作った入浴剤、岩塩、モリンガ(西洋ワサビの木)の葉パウダー、手工芸品、などの品質向上と販売支援
- アラハバード有機農業組合の人材育成及び直接販売活動、及びミニコープの組織化と運営のための支援
- 乳幼児死亡率、栄養不良、妊産婦死亡率の改善を目指した、政府保健機関スタッフと農村保健ボランティアの協働による統合的母子保健事業
- 貧困撲滅と住民エンパワーメントのための収入向上を目指した食品加工、養鶏事業、キノコ栽培の支援。
- マーケティング及び精米所設立支援(精米所を会社として設立することも検討中)。

日本国内活動としては、

- 本会の活性化のためにインターネット等の広報活動を強化し、アラハバード有機農業組合の会員を増やす努力をする。
- 会の活動をより広く知ってもらうために、他の団体等と協力・協働し、報告会、広報活動を強化し、当会主催イベントを企画・実施する。
- インドスタディーツアーを実施する。インド三浦後援会、愛農会との協働で行う。実施予定日は2016年8月中旬以降と2017年3月上旬とする。
- アラハバード有機農業組合製品及び農村女性が制作した民芸品等を中心に、日本国内への販売活動を支援する。
- 継続教育学部の入学者、インターン、ボランティアの募集を行う。
- これらの国内での支援活動を強化するために、国内と現地とのコミュニケーションを円滑にし、より効果的な協力体制を築く。
- アーシャ学校の生徒及び裁縫教室受講生のための奨学金基金募集の強化を行う。
- アーシャ学校マエダ校の生徒数が増加し、一教室では手狭であり、校舎を校長の地所に移転するための募金を開始する。
- 次期プロジェクト形成のために、関係機関(JICA, 外務省等)との協議を開始する。
- その他、10周年記念事業として昨年度より懸案になっていた記念誌について再度検討する。

上記の項目を今年度における基本方針とする。

I. 特定非営利活動に係る事業

1. 農村開発・農業開発支援事業

持続可能な農業・農村開発・収入向上事業

(1) 貧困農民のための収入向上活動事業

有機野菜、日本米、キノコ、ニーム製品、入浴剤、加工食品（特に、味噌、醤油、食肉加工品、漬物、乾燥キノコ、乾燥モリンガ）の質の向上と販路拡大のための協力を行う。

(2) 若い人材の育成と総合的な農村開発の推進

昨年同様、若い農村住民の人材を発掘し、草の根リーダーの可能性を持った人材育成を行う。また、育成された人材が統合的農村開発の役割を果たすことができるように、派遣された現地スタッフ及び専門家は技術協力、助言を行う。今年度の活動対象地域は昨年同様、アラハバード県内の3つの郡、即ちジャスラ郡、コンディアラ郡、シャンカルガル郡を中心に行うが、北東インドや他の地域から要望がある場合、極力それに加える。また、農村・農業開発に興味のある者を学生、または研修生として受け入れる。

4月20日より1週間程度、インド人スタッフ3名、組合栽培農家3名三浦照男（リーダー）がタイ国で、研修を行う。この費用はアジア生協基金の支援金、及び組合運営費によって賄う。

2016年11月と2017年2月に継続教育学部において実施される「食の祭典（Food Fair）」及び2月に行われる村での収穫感謝祭の実施支援を行う。

(3) アーシャ農村学校及び持続可能な農村開発研修センターの効果的な活用

上記の事業をより強固にするために、2011年度に設立された「持続可能な農村開発研修センター（継続教育学部の3階）」、本会とJICAの支援によって建てられたアラハバード県内の農村4カ所に設立されたアーシャ農村学校、及びジャスラ郡のマエダフィールド事務所を多目的に活用できるように、協力、助言活動をする。活用内容は、アーシャ学校教師の合同月例会議、有機農業の普及、農村住民リーダー育成、母子保健活動、子どもの教育、農村女性の社会的地位と収入向上等が計画されている。変革すべき課題を上記の場所をフル活用しながら、住民の生活向上を図ることに寄与することを目指す。

2. 人材育成支援事業

2-1. 持続可能な農業・農村開発コース（SCSAD）運営支援および研修所の環境向上

当コースはアジアの農村で献身的に働く農村リーダーを養成することを目的にしている。今年度は、インド人の他に、日本人2名を含む6名の新生を予定している。特に経済的理由で、授業料等を支払うことが困難な学生に対し、奨学金を供与する。

2-2. 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業

(1) アーシャ学校（3村、3校・児童600名）の運営と教育改善のための支援

児童に対する保健教育を中心に、環境教育、農業教育、美術教育などを特別学習プログラムとして支援する。（このいくつかの支援は継続教育学部のセンターで宿泊学習として実施する。）

(2) アーシャ学校教師の研修支援

アーシャ学校教師が教師としての資質を向上できるように、継続教育学部で年2回教師のセミナーを実施する。

(3) アーシャ学校の基盤整備支援

風雨等で壊れた校舎の屋根、床等の修理改善の支援をする。

(4) アーシャ学校の生徒に対する奨学金寄与

アーシャ学校の授業料は他の私立学校に比べ低く設定されている。授業料を高く設定すると学校に来られなくなる貧困家庭の生徒が多い。貧困家庭の生徒に奨学金を提供することによって、教師はある程度の収入を確保することができる。教師が生徒に教えるだけでなく、生徒のリクルートから自立的な学校運営まで行うことができるという認識を高めるためである。

(5) アーシャ学校建設の募金

アーシャ学校マイダ校は定員60名を予定していたが、現在その2倍の生徒が在籍し、教室の拡張、プレイグラウンドの確保が困難になっているため、マイダ校校長の私有地に移転することが要望されている。その建設に約100万円の募金を行う。尚、現在のマイダ校は組合員が生産する有機米の精米所、また各活動グループ（VHV、組合活動、アーシャ学校教師会、裁縫教室等）の活動に使われる計画である。募金活動に関する立案は川口理事、国内事務所が行う。

2-3. 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

農村女性の収入向上のための事業として、昨年同様、2か所のアーシャ農村学校で行われる基礎裁縫クラス（基礎コース3か月、実践コース3か月間）の研修を支援する。コース修了後、優秀な研修生に対して上級手芸コース（2か月程）の支援を、奨学金支給や技術・管理指導を通して行う。上級コースでは小物入れ、トートバック、エプロン、聖書入れ等を販売用として製作できるよう支援する。

3. 農村保健衛生改善支援事業

2016年度も政府機関保健スタッフと農村保健ボランティア（VHV）の協働によってモデル的な住民参加型母子保健・栄養普及活動が構築されることを目的とし、VHVの育成と継続可能な母子保健活動の体制と仕組みを確立し、適切な母乳育児、補完食、健康栄養に関する啓蒙と普及活動を行う。この事業推進のために三浦孝子を年2回（8月と翌年1月下旬合計約110日間）短期専門家として派遣する。

4. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報活動

4-1. ワークキャンプ・スタディーツアー開催、訪問者受入

スタディーツアー開催（アーシャ・公益法人全国愛農会・インド三浦後援会・継続教育学部 共催）

2016年8月15日～26日：一般・学生向け、継続教育学部の活動だけでなく、インドの農村の現状理解の場とする。

2016年3月（11日間程度）：内容は同上。学生が中心。

4-2. 会報の発行

アーシャの活動、サムヒギンボトム農工科学大学継続教育学部のプロジェクトの報告を会員、支援者に理解していただくために年4回アーシャの機関紙を発行する。

4-3. ホームページ等での広報

ホームページ、ブログ、Facebook、Twitter等、広報の充実を図り、より広く当会の活動を知ってもらい、当会の認知度向上、会員増強を狙う。

4-4. 日本国内における学生及び市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、及び参加

セミナー、講演、研修会、ワークショップ、交流会、絵画展 開催予定

現時点において計画されている時期と場所については以下の通りである。

- 4月16日 那須塩原市にて若い母親やインドに興味を持っている方を対象とした方へのインドプロジェクト帰国報告会。三浦孝子講師。（実施済み、30名参加）
- 6月10日 JICA国際研修センター（市谷ビル）においてセミナー「北インド・アラハバード県における農村母子保健の状況とボランティア育成事業」三浦孝子講師
- 6月13日 とわの森学園高校にてインドプロジェクト報告会 三浦照男 報告者
- 6月14日 酪農学園大学にてインドプロジェクト報告会 三浦照男 報告者
- 6月29日 愛農学園高校にてインドでの活動報告 三浦照男
- 7月3日 田園調布教会においてインドプロジェクト報告会 三浦照男 報告
- 7月5日 全国日本キリスト教団婦人連合会の研修会にて インドプロジェクトについて講演 三浦照男講師
- 7月及び2017年1月スタディーツアー参加者に対する事前学習会（中西泉講師）
- インドと日本の国際交流。
- 絵画展、写真展、映写会等 開催地・開催時期未定。

4-5. 次期事業形成調査

(1) 本会理事であり、現地事業総責任者である三浦が JICA の関係者と協議を始め、次期 JPP もしくは外務省 NGO 支援室との協議をする準備を始める。また、上記の研修の機会や 5 月中旬から 6 月下旬にかけて、北海道や山形、愛知、三重等の本会関係者や支援者と会い、今後の連携方針について話し合いを持ち、次期事業形成のための調査、協力体制の連携強化を図る。

(2) 今年度より企業の CSR 活動へのアプローチ、企業からの寄付募集の活動を行う。この活動については、山下逸喜理事に担当理事になっていただき、国内事務所、アラハバード事務所と協働しながら作業を進める。

5. 緊急支援活動事業

4 月 14 日とその後に起きた熊本地震で多くの方々が被災されている。特に、アーシャ理事高丸氏はじめ、アーシャの研修生受け入れ先となってくださっていた熊本いのちと土を考える会（消費者組合）の方々への募金活動を行い、高丸氏を通して届ける。

II. その他の事業

1. バザー・チャリティ事業

栃木県内にて、地域のバザー等に出店し、当会の活動の認知度向上、AOAC 商品の広報・販売を行う。2013 年度より開始した収入向上支援、調査、販売、新製品開発収入向上事業推進のためのマーケット開発・販売活動を継続する。(大浦理事・會田担当)
現地派遣スタッフはアラハバード有機農業組合の製品の販売を促進するために製品開発支援、マーケット開発を行う。

2. 手工芸品等物品販売事業

国内スタッフは、収入向上支援のためアラハバードで生産された、入浴剤、岩塩、モリンガ（ワサビの木）葉のパウダー、及び農村女性が作った手工芸品の販売支援を行う。なお、今年度はインターネットによる通信販売を開始できるよう、準備を進める。

3. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

4-5 (1)にあるとおり、国際交流・会の活動 PR のため、アーシャ学校児童の絵画展を開催する計画。

Ⅲ. その他

2016年度の人事は以下のように計画する。

- ①三浦照男：プロジェクト総責任者
- ②川口景子：2013年7月より、3年間の契約でインドに派遣中。今年度も現地常駐スタッフとしてプロジェクト形成、インドプロジェクト総務及び会計主任として雇用。奨学金担当理事。
- ③林神志郎：2016年7月より2年間の契約でインドに派遣。現地調査、研修事業、プロジェクト形成、学部長補佐等として雇用。
- ④平野伸吾 2016年7月よりインターンとして2年の契約で現地派遣。主に、マーケティング開発、食品加工、及び会計補佐にあたる。
- ⑤三浦孝子（母子保健専門家）インド派遣：技術指導、助言活動
- ⑥丹羽寿美（国内事務局）総務事務、会計（後任が見つかるまで担当）
- ⑦會田るり子（国内事務局）会員管理、収入向上事業、マーケティング、収益事業、
- ⑧マッカーリー里美（国内事務局）国内事務補助

派遣されたスタッフ、専門家は、それらの活動の成果を、日本において市民向けのセミナーや講演会などを通じて、開発教育、市民教育、国際協力等の活動に活用する。本会の運営を強化するために、会員の募集、支援金の確保に努める。

⑨アーシャ理事の担当（基本的に無給）案

- 山下 逸喜（広報、CSR、国内外マーケティング）
- 中西 泉（インドスタディーツアー企画、アーシャ手工芸品販売近畿担当）
- 大浦 智子（イベント、アーシャ手工芸品販売栃木担当）
- 佐藤 耕士（広報、HP、イベント、アーシャ手工芸品販売福島担当）
- 高丸 和彦（研修受け入れ、イベント、アーシャ手工芸品販売九州担当）
- 石原 潔（研修受け入れ、イベント、アーシャ手工芸品販売中部担当）
- 町上 貴也（広報担当、イベント、アーシャ手工芸品販売名古屋担当）
- 川口 景子（海外事務局、農村女性とアーシャ学校のための奨学金及び募金担当）
- 大津 健一（組織運営アドバイザー）
- 三浦 照男（新プロジェクト形成、インドプロジェクト監督）
- 三浦 孝子（国内事務局、アーシャ組織運営）

IV. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1.農村開発・農業開発支援事業	持続可能な農業・農村開発・収入向上事業	通年	インド・アラハバード地区	3名	インド・アラハバード地区30万人の農村住民	1,014
2.人材育成支援事業	①持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上	通年	インド・アラハバード地区	3名	研修生8名および研修生の活動地(インド メガラヤ州、マニプール州、日本)の農村住民各1000名	0
	②僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業	通年	インド・アラハバード地区	2名	インド・アラハバード地区 550名	180
	③裁縫学校の新規開設・運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援	通年	インド・アラハバード地区	2名	インド・アラハバード地区 550名	113
3.農村保健衛生改善支援事業	健康栄養・農村母子保健の事業支援	通年	インド・アラハバード地区	4名	インド・アラハバード地区30万人の農村住民	19,228
4.事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報活動	①ワークキャンプの開催・研修ツアー(2回)・訪問者受入	随時	日本	5名	日本国内 300名	563
	②会報の発行	年4回	日本・インド・米国	5名	日本国内、インド・米国 述べ約1000名	130
	③ホームページ等での広報	随時	日本・インド・米国	1名	日本語・英語が読める不特定多数	2
	④日本国内における学生及び市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、及び参加	随時	日本	5名	日本国内 300名	10
	⑤次期事業形成調査	随時	日本・インド	2名	日本、インド	2
5.災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業	緊急支援活動事業	随時	日本	1名	日本国内	50
						21,292

(2)その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
バザー・チャリティ事業	バザー出店	随時	日本	2名	10
手工芸品等 物品販売事業	収入向上支援、調査、販売、 新製品開発	随時	日本・インド	3名	697
演奏会、展示会、 図書出版等の文化事業	絵画展実施	随時	日本	3名	0